

令和5年(2023年)1月4日

れきみん

資料館だより

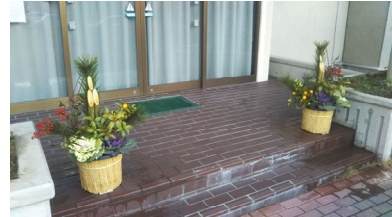
No. III-38

相生市立歴史民俗資料館

あけましておめでとうございます

本年も利用しやすい「れきみん」を目指します

- ◇ 全館にエアコンが設置され、夏場・冬場も快適に観覧できるようになりました。
- ◇ 年度末にトイレを改修し、多目的トイレを設置する予定です。
- ◇ 常設展の充実を図ります(新展示や配布用展示解説を増やします)。



〈新展示 相生湾での真珠養殖〉

1階展示室に、かつて相生湾で行われていた真珠養殖の資料を新たに展示しました。資料は中島家[相生3丁目]から寄贈されたもので、養殖された真珠、天秤(重さを測る道具)、ノギス(大きさを測る道具)、ゲージ(大きさに選別するためのふるいにかける道具)などがあります。

相生湾での真珠養殖

県水産試験場の調査の結果、相生湾でも養殖可能との判断が示され、これを受けて神戸真珠養殖会社が1956年(昭和31)から養殖に乗り出しました。これは技術面の未熟さから失敗に終わりましたが、翌1957年(昭和32)年、中島富三氏(故人)が養殖を始めました(神戸新聞記事1960.1.14)。

中島家は三重県四日市市の専門家から指導を受けていたと伝えられています。同家は1960年代前半(昭和30年代後半)に養殖から撤退しましたが、その後も漁協により養殖は続けられました。

1967年(昭和42)に重油流出事故があり、真珠の筏に重油が付着し被害を受けたと報じられており(神戸新聞記事1967.7.13)、この頃まで養殖が続けられていたことがわかります。



真珠養殖資料の展示



真珠養殖作業所(中島家寄贈写真)



真珠養殖筏(中島家寄贈写真)

(橋本一彦・中濱久喜)

- ◇ 「トライやる・ウィーク」の体験場所として、兵庫県立大学附属中学校生徒3名を受け入れました(11月10日~12日)。体験で学んだことをポスターにして表してくれましたので、一部を紹介します。他の作品については、館内に掲示・配架しています。

相生市 平和の史跡

中央通り

プラタナス並木

造船所で働いていた朝鮮人の帰還者らが中央通りに約200本のプラタナスの苗木を植樹
「友好の印に」
「世話になった土地や人々へのお礼として」
「帰国の喜びを込めて」



相生市歴史民俗資料館

相生市・播磨の歴史や昔の人の生活。また、相生市の偉人や遺跡についてとても詳しく学べる施設



相生平和記念碑

「韓国朝鮮人無縁仏碑」
朝鮮寺院風の碑は御影石できており、内部には戦争によって亡くなった朝鮮人とみられる約60体の遺骨が納められている

市役所

長崎の鐘

大正時代に長崎からペーロンが伝わったことから2002年に友好都市をした記念に長崎から贈られた。翌年から、広島・長崎の原爆の日と終戦記念日に年3回鳴らして平和を祈っている。

核兵器廃絶平和都市宣言碑

相生市は再び戦争と同じような過酷な歴史をくり返さず、平和な世界にするという決意を込めて、1986年9月16日に核兵器廃絶平和都市宣言を行った。



兵庫県立大学附属中学校 15回生 西山 華愛